COLUMN

ビッグデータの必要性

高俊興業株式会社　代表取締役社長
高橋　潤 MEGUMU TAKAHASHI

1973 年 生まれ
1996 年 大学経営学部商学科卒業
1996 年 建設会社入社
2000 年 高俊興業株式会社入社
2015 年 代表取締役社長就任

一般社団法人廃棄物処理施設技術管理協会副会長、一般社団法人東京都産業資源循環協会常任理事 建設廃棄物委員長、公益社団法人全国産業資源循環連合会 業務主任者試験等準備検討委員会委員 人材育成方策調査検討会委員

本年は十干十二支の「乙巳（きのとみ）」年になるそうで、前年の「成長」と「変化」を継承し、今年は再生や変化を繰り返しながら「柔軟に発展」していく年だと言われている。これまでの努力や準備が実を結び始める人もいれば、辛抱強さが試される人もいる。いずれにしても焦らずに粘り強く取り組む姿勢が求められる一年になるのではないか、と思う。また 4 月から「関西万博」が開催される。「持続可能な開発目標（SDGs）」達成への貢献、さらに「日本の国家戦略 Society5.0」の実現を図るイベントとして大いに期待するところである。

この Society5.0 社会の実現で解決を目指す項目として挙げられているのが「温室効果ガス排出の抑制」や「持続可能な産業化の推進」であり、産業廃棄物業界にも密接に関係している。こうした社会的な課題を解決するために必要な技術として注目されているのが、ロボットや AI・通信システム・IoT・VR 等の導入と、ビッグデータの活用である。

IT 技術の発達によって、データの収集・分析が容易となり、さらに分析技術の発達により、価値のあるデータを得ることが可能となった。

今後、環境保全や資源化に向けた施策に貢献していくためには、我々の業界でも各社の基幹システムに収納しているデータや、電子マニフェストデータ等のビッグデータを活用することが必要だと思っている。

産業廃棄物の許認可や管理については、行政機関・排出事業者・処理業者を含め、色々な方が関与することになるが、同じデータを複数関係者が入力するようなムダを排除し、初回の登録データが、そのまま再利用される仕組みづくりが必要である。

その上で、様々なデータをどこで一元格納するかは検討を要するが、必要な情報を取り出せるシステム構築をし、統計データの取得や課題を抽出するための分析精度を上げられるようにしなければならない。

現在、各種データ入力は行っているが、精度を高めていくためには、不要なデータは無いか、逆に不足しているデータが何なのか、きちんとビッグデータを利活用するために、項目を整理していくことも重要である。

ムダ・ムリ・ムラを排除しつつ、勘・コツ・経験に加え、上記で述べた便利なアイテムも駆使し、労働生産性の向上や、データ精度の高度化に繋げることで、少しでも社会課題となっている部分の解決を図り、より豊かな世の中になっていくよう、これからも尽力していきたいと思う。